

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## 国学研究プラットフォーム公開レクチャー

|       |                                                                                                  |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2024-07-02<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/0002000540">https://doi.org/10.57529/0002000540</a>            |

## 国学研究プラットフォーム公開レクチャー

2018年度から始動した日本文化研究所の研究事業、「[国学研究プラットフォーム]の展開と国学史像の再構築」は、「近世・近代国学に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築」、「国学・神道関係人物データベースの拡充」、「国学研究のネットワークの拡張」を三つの中心的な柱としている。そのうち第三の「国学研究のネットワークの拡張」の一環として、2018年度から「国学研究プラットフォーム公開レクチャー」という新たな取り組みを開始した。

これは学内外から国学に関わる研究に携わっている第一線の研究者を招き、それぞれの専門分野の見地から、国学をめぐる研究史や最新の研究について講演を行っていただくという催しである。このような講演を通じて得られた知見を、本研究事業のもう一つの柱である「近世・近代国学に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築」に反映させることがこの公開レクチャーの趣旨である。さらにこうした講演を一般に向けて公開することで、最新の学術的研究成果を社会に還元していくことも企図している。

2018年度は5名の講師（及び2名のコメンテーター）によるレクチャーが行われた。以下その概要を記載し、次頁以降に講師自身による講演の要旨を掲載する（齋藤の要旨は本誌に研究ノートとして掲載）。なお、会場はいずれもAMC棟会議室06であった。

第1回の公開レクチャーは2018年9月21日に開催された。講師として、日本文学の領域において国学研究を行ってきた一戸渉氏（慶應義塾大学）を招き、「国学と復古—光格天

皇以後—」とのテーマにより、近世後期の「復古」の潮流と国学との関係についてお話いただいた。

第2回の公開レクチャーは2019年1月25日に開催された。国学者の政治思想の研究を精力的に行ってきた三ツ松誠氏（佐賀大学）を招き、「国学政治思想史研究の現在」とのテーマによりお話いただいた。丸山真男以降の国学政治思想史研究の展開を概観しつつ、今後の研究の可能性を展望する内容となった。

第3回は2019年2月27日に開催した。この回のみは垂加神道と国学の関係という共通テーマを設定し、2名の講師によるレクチャーが行われた。一人は近世・近代の日本宗教史研究で知られ、近年『渋川春海——失われた暦を求めて』（山川出版社）を上梓した林淳氏（愛知学院大学）であり、「渋川春海の垂加神道・吉川神道への批判と国学者への影響」とのテーマによりお話いただいた。

もう一人の講師である齋藤公太（國學院大學）は、「垂加神道と国学—その関係をめぐる研究史—」というテーマのもと、垂加神道と国学の関係に関する研究史を概観した。

第4回は2019年3月4日に開催された。講師の小田真裕氏（船橋市郷土資料館）には「国学研究への入り口—生涯学習の観点から—」というテーマにより、勤務先での経験に基づき一般の人々が国学研究に触れる可能性についてお話いただいた。この回では小林威朗氏（國學院大學）、芹口真結子氏（一橋大学）をコメンテーターとして、それぞれの職務上の経験から小田氏のレクチャーに対してコメントをしていただいた。（齋藤公太）